

きづのさと

NO.122 月刊

昭和四十三年八月一日発行 非売品
岡山県新庄郡吉備町東町一五 宇垣方
吉備 観老協 会

第121号

○ 戸川達敏 (その三)

明治二年倉敷県に提出した文書

明治二己巳年十一月

中大夫 戸川達敏 (撫川領主)

文久三癸亥年より慶應三丁卯年迄 五ヶ年平均書上

高合六千石七拾九石三升四合四勺

都宇郡下撫川村、中撫川村、日畑村、賀陽郡三田村、
川上郡九名村二六村、大津寄村、高山村、
小田郡宇戸谷村、高末村。

内

高五千石 拝領本高

同千石七拾九石三升四合四勺 込高

文久三癸亥年より慶應三丁卯年迄

五ヶ年平均 当稲作不熟ニ付五拾石枝下ヶ遣ス并志ヶ
年分諸渡米引除 全正組納込

(文久三年) 癸亥年此物成 式千五百九拾四石八斗八升五合志勺

甲子年此物成 式千六百四拾八石三升志勺

(元治元年) 志ヶ年分諸渡米引除 全正組納込

(慶応元年) 乙丑年此物成 式千六百五拾六石八斗七升三合志勺

(慶応二年) 右同断

丙寅年此物成 式千五百七拾五石七斗六升四合六勺

稲作不熟ニ付七拾石檢見下ヶ枝替ス并ニ諸渡米引除

全正組納込

(慶応三年) 丁卯年此物成 式千六百四拾七石五升六合三勺

志ヶ年分諸渡米 引除 全正組納込

五ヶ年正組納米 合 志 万三千百貳拾貳石六斗九合三勺

志ヶ年分 式千六百貳拾四石五斗貳升壹合九勺

五ヶ年平均 免(志ヶ) 外ニ

一、林山 拾五ヶ所 但レ松林山 六ヶ所、小松林山 九ヶ所

一、藪 四ヶ所 但レ陣屋門ニ而 三ヶ所、大川堤ニ而 三ヶ所

一、金三拾七兩三朱と永四拾八文一八 志ヶ年村々より定式相納分

一、金拾六兩三朱と永拾五文志志 志ヶ年分右同断年々増減有之

右の通相違無御座候以上 中大夫 戸川達敏

明治二己巳年十一月

× 左に文久年間戸川氏五家并に御料所(倉敷天領)の采地村別石高を示すと

X 戸川方之助様 御屋鋪 極川 (庭頼藩主戸川氏本家)

石高

領地

庄屋名

現町村名

一九三三、一三五

都守郡下極川

大庄屋 難波忠一小分八藤太

吉備町

九四一、七四二〇

中極川

大田仙右工門 同太郎右工門

〃

二七四、〇九〇〇

日畑村

浅沼兵左門

〃

一六六、八〇七〇

川上郡佐屋村

三宅幾太

川上町

九五、六三八〇

賀陽郡三田村

難波八藤太

吉備町

四二九、九二八〇

小田郡宇治谷村

甲村幸太郎

美日里町

一二六、二八〇

上高木村

長谷川善作

矢掛町

五六六、六〇一〇

川上郡九名村

大庄屋 坂田友次郎 伊達豊三郎

川上町

二〇八、七六九〇

大津寄村

坂田治兵衛

川上町

七三三、四二三〇

高山村

平松市兵衛

高梁市

七三四、二九二〇

ニヶ村

三宅信次

川上町

〃

〃

川上静夫 赤木俊次

〃

〃

〃

〃

〃

緋高六千九拾七石四升九合五勺

御高 五千石

分家

X 戸川近江守様 御陣屋

妹尾

(庭頼藩主三代戸川正安の三男安成まり)

一三三〇、〇〇〇

都守郡妹尾村

大庄屋 佐藤太一郎 永原傳四郎 妹尾町

同東磯

年寄 高永三十郎

井上又兵衛

三

四

同岩之進 藤井遠右工門 浦田喜右工門

福島小平

同西磯

年寄 佐藤系十郎 和田治右工門

永瀬徳松 中務文太郎

一七〇、〇〇〇

妹尾崎村

龍治典一郎 龍治太郎右工門 同文吉 妹尾町

三〇〇、〇〇〇

古新田

吉田新左工門 木村城平 年寄 渡辺安右工門

吉田徳大夫 同利右工門 木村東作 福田村

佐藤官蔵 年寄 松下伴次 佐古松右工門

年寄 吉田豊吉 難波忠右工門

年寄 神崎五平 佐藤太右左衛門 掛屋井上彌惣

年寄 神崎五平 佐藤太右左衛門 掛屋井上彌惣

緋高四千五百石 御高 千五百石

X 戸川捨次郎様 御陣屋

早島

(庭頼藩主初代戸川達安の五男安九より分)

九〇〇、〇〇〇

都守郡早島村東

安原庄左工門 舟越永介 早島町

九二〇、〇〇〇

同西

佐藤秀太郎 溝手慶左衛門

二〇〇、〇〇〇

中帶江

草野庄之助

倉敷市

八八〇、〇〇〇

前湯村

佐藤秀太郎

早島町

五八〇、〇〇〇

東庄村

内田伊三郎

庄 村

三九〇、〇〇〇

西田村

木村彌三九郎

倉敷市

四二〇〇〇〇〇 竈屋郡 高須加村 片山讓吉 倉敷市
八一〇〇〇〇〇 辻村 中村長七郎
八五〇〇〇〇〇 沖新田村 福山彦六、大森光太郎 渡辺清太郎

御高 五千九百五十石 御高 三千石 茶屋町

× 戸川播磨守様 御陣屋在早島八御殿(早島領主三代安明六男安通より)
五三〇、二六〇〇 都守郡中島村 古谷龜右衛門 倉敷市 分家

御高四百石

× 戸川伊豆守様 御陣屋 帶江(庭頼藩主初代戸川達安の孫安和の分家)

四八〇、〇〇〇〇 竈屋郡羽島村 龜山竹次郎 倉敷市
五二〇、〇〇〇〇 加徳山村 尾崎龜五郎
一八〇、〇〇〇〇 有城村 伊藤友太郎 藤原孫左衛門
四五〇、〇〇〇〇 二日市 平松六郎右三門
五〇〇、〇〇〇〇 龜山村 大庄屋 龜山伊右衛門
二八〇、〇〇〇〇 前沼村 佐藤秀太郎
四八〇、〇〇〇〇 高沼村 西山三木之介 大庄屋 同謙蔵
八五〇、〇〇〇〇 沖新田 内田傳之丞
三五〇、〇〇〇〇 都守郡五日市 長瀬市大夫 早島町
倉敷市

八八〇、〇〇〇〇 宮崎村 溝手政太郎 早島町
九五〇、〇〇〇〇 二子村 中村修平 庄
三〇、〇〇〇〇 東左村 中村又六 庄

御高 五千九百五十石 御高 三千五百石
御料所(天領地、幕府直轄地) 御陣屋 倉敷御代官大竹左馬太郎様 倉敷市

一八三四八九一〇 竈屋郡倉敷村 三宅大平 植田助右三門 倉敷市
一二一七九六一〇 浜村 屋葺富太郎
一三〇、〇〇〇〇 小子位村
一八〇、二二七〇 泗津村 年寄三宅染次
一五六、九六九〇 中島村 若林五左衛門 三島舒太郎
五四、九〇六八 沖村 山野滯一 同時之助
二七、八五四一 安江村 和栗仁左衛門
五七五、四七五〇 都守郡鳥羽村 三木三郎兵衛
六四八、七九二〇 栗坂村 八木太郎左衛門 庄
五二六、八七〇〇 大内田村 公森友太郎 吉備町
一〇〇、六四八五〇 山田村 岡六郎右衛門 福田村
五五七、四四九〇 山田村入作 龍治興一郎
九四六、五七〇〇 下庄村 平松一之祐 同重右衛門 庄

一〇四、七一五〇	都宇郡 下庄村	難波陸太郎	内田八助	庄 村
六〇、一〇一六〇	上庄村	内田官蔵		
八三、一三三八〇	山地村	内田亮三郎		
八五、三三六七〇	日畑村	大森喜八郎	難波儀一郎	
五〇、五二八〇	惣丸村	佐藤中五郎	高原大助	
四〇、四六一六〇		脇本萬歳		

計一万三千五百六拾九石二斗九升にして其他阿賀哲田両郡等に廣く承地を有レその總高は四万三千石余になる。

△戸川達敏は末代の極川領主にして實は譜岐國高松藩主松平氏の支族松平一樂の長子に生れたが、極川領主戸川達義の子達寛が弘化四年二月十八歳で病死したので戸川家の養嗣となりて遺領五千石を相続した。レレ明治二年の政変にまつて生れ故御の高松に移り明治廿七年五月六日病に罹り六十五歳を逝去した。屍は始め香川郡宮脇村西方寺内に葬れたが同四十二年四月に改めて戸川家の菩提所であつた庭瀬の日蓮宗常如山不変院内に葬り建塔した。法名を淳徳院殿那義日法大居士。妻は達義の娘種子といひ、達敏に先立ちて同四年十一月廿五日廿九歳で病没し、后妻として田村哥の女縁余を娶へたがこの女性も病氣のため同廿三年七月廿一日廿六歳で他界した。先妻には子がなく后妻の間に一男一女をもうけた田川を具達といひ、明治十七年三月廿四日高松の居士に生れた。姉を舟子といつた共に父母を失ひ、旧臣

であつた極川の宮田信次を頼つて極川に來た。真達は旧関西中學校を卒業した。肺結核に罹り岡山病院に入院中病がツクリ同四十二年七月廿一日二十四歳で此の世を去つた。

庭瀬不変院内に英智院殿と真達日亮大居士と銘ある墓標は真達の永遠に眠る所である。姉の舟子は倉敷市

二部の間草野家の同屋で即ち拵折りの富貴家小御多喜治に嫁して一女を産みを生んだ。明治四十三年十二月廿一日三十歳で病死した。そこで戸川家の直系は絶えたことになるが、偶小御家も過繼したので



庭瀬藩主松倉氏
極川領主戸川氏
川上、小田兩郡内領地畧図

安道 左吉文化八年五月十七日北原泉院然義堂居士
安迹 孝三郎享和元年八月十八日北原泉院然義堂居士

民次郎 天保七年二月十日北原泉院本深自無居士

安民 隆平弘化四年六月廿三日北原泉院然義堂居士——嘉正 鳥山に住す明治
の騒乱に幕臣として活躍し子孫は明かならず

戸川家は徳川の直参(直接將軍に謁見し得る資格)となり後々田安家に住えて一千石
を食んだ。屋敷はもと麻布十番町目ヶ池注にありたが明和元年の江戸大火(火元は麻布六
本木鳥居坂の極川領主戸川直恒の屋敷より出火)に罹り牛込若松町に移転したが安
政の大震災で破壊し修理した。中庄領主の子孫戸川家は同族にこの家に住る当主
カ雄は大正元年にここに生れた現在鎌倉市打越三〇三に住している。

若松町の屋敷は約三、五〇〇坪建物は約八十坪あり正門は間口二間の乳門で左右に三
棟の仲間長屋があり関東大震災で焼失してしまつた。倉庫には槍十本、刀大小五十
振、弓五、その他古文書骨董品など多数あったが徳川家出入の骨董商がきて持去
つたという。カ雄の祖父時代までは毎年正月年賀に参名し將軍の横筆を伺つたという。

○ 菅江領主戸川氏の菩提寺

東京都世田ヶ谷区鳥山一四九番地日蓮宗玄照寺である。当寺はもと芝白金
三光町の清正公附近にあつたが昭和の始め都市計画のため現地に移したのである

一〇 九

開基は慶長十九年朝鮮より帰化した僧の日延上人にして現住証は岡立生という
(藤六輯支配者篇戸川肥右守遠安参照) 当寺には菅江領主初代戸川安利以下
累代の墓がある。附近に信にお岩明神という祠がある。玄照寺の兼帯であるが参詣者
が多く有名になつたので玄照寺の墓地に入る門を勝手にお岩明神に移し改造したので
檀家から苦情が出て住職も困つてゐるという。

× 戸川氏の墓は、いづれも江戸と在所の二ヶ所にある。これは両墓全制によるものである。両
墓制とは後々の人が遺骨を埋めた葬地にたて埋墓とし、家族が遠隔地にあつて
墓参りに不便なため、土葬の時は遺骨をや丸甲を截り、土葬の時は分骨して祭地に墓
をたてる。これをお拝み墓とか着め墓と云う。その例は沢山ある郷里では大正東本堂
公羽の墓は東京青山墓地にあるが川入の大正東本堂先登にも有骨してある。最も死者が生
前に二つの墓をたてるよう遺言した時は両墓全制とはいつてゐない。国学者で古事記
伝を著わした相模守本居宣長は二ヶ所の墓をつくるより言残した。一つは本居家の菩提
寺松原市の樹敬寺。もう一つは松原市から南西七キロの山室山妙樂寺の山頂にもある。

特選 クリーニング
高級和服、洋服
吉備ドライ
TEL ③ 0620
喫茶と食事
Meiji 明治
庭瀬駅前通
TEL ③ 0143